

平成29年 9月定例会 地方創生対策特別委員会 (事前)

平成29年 9月13日 (水)

〔委員会の概要〕

岡田委員長

ただいまから、地方創生対策特別委員会を開会いたします。(10時32分)

直ちに、議事に入ります。

本日の議題は、当委員会に係る付議事件の調査についてであります。

付議事件につきましては、お手元に御配付の議事次第のとおりであります。

まず、理事者において、説明又は報告すべき事項があれば、これを受けたいと思います。

【説明事項】

- 提出予定案件について(資料①②)

【報告事項】

- 平成28年度観光振興施策の実施状況について(資料③④)
- とくしまLED・デジタルアートフェスティバルについて(資料⑤)
- とくしまマラソンについて(資料⑥)
- 「ターンテーブル」整備事業について(資料⑦)

安井政策創造部長

9月定例会に提出を予定いたしております、地方創生対策関係の案件につきまして、御説明申し上げます。私からは、歳入歳出予算の総括表及び政策創造部関係について御説明を申し上げ、引き続きまして、各所管部から御説明申し上げますので、よろしくお願いたします。

お手元に御配付の地方創生対策特別委員会説明資料の1ページを御覧ください。平成29年度一般会計補正予算案でございます。

まず、一般会計の補正総額は、総括表一番下の計欄左から3列目に記載のとおり8,810万円の増額をお願いしております、補正後の予算総額はその右の欄のとおり、239億265万7,000円となっております。補正額の財源につきましては、財源内訳欄の括弧内に記載のとおりでございます。

続きまして、政策創造部関係につきまして、御説明申し上げます。総括表の一番上の政策創造部の欄でございます。政策創造部の補正額は、左から第3番目の欄に記載のとおり、1,550万円の増額をお願いしております。補正後の予算総額は、その右隣の欄のとおり、7億5,833万7,000円となっております。次に、政策創造部の各課別の主要事項につきまして、御説明申し上げます。

3ページを御覧ください。地方創生推進課でございます。上から2段目の計画調査費の摘要欄①、地方創生の深化のための支援費のア、新規事業「v s 東京」実践・加速化プロジェクトでございます。共通コンセプトv s 東京の実践を加速化するため、これまでの取組を踏まえた新たな動画の制作、発信を行うとともに、規制改革の一環として行政手続き

の簡素化へ向け、働き方改革にもつながるAIを活用した実証実験を行うための経費として、900万円を計上いたしております。

次に、イ、新規事業「徳島とつながろう！」若者定着・還流促進事業でございますが、社会減の大きな要因となっている若者層の、Uターンや定着・定住を促進するため、効果的な情報発信や啓発方法等を検討するとともに、若者向け情報発信会員募集サイトの開設や中高生・保護者向けのフォーラム等を開催する経費として、350万円を計上いたしております。

次に、ウ、新規事業「地方創生連携協定」活用モデル事業でございますが、地方創生の推進に関する包括連携協定締結企業の持つ強みやノウハウを本県が直面する行政課題の解決に生かす新たな官民連携モデルを構築するため、締結企業と総合戦略の実効性を高める連携事業として、働き方改革の共同研究を実施するための経費として、300万円を計上いたしております。補正後の地方創生推進課の予算総額は2億4,278万円となっております。

提出予定案件の説明は、以上でございます。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

黒下商工労働観光部副部長

今定例会に提出を予定しております、商工労働観光部関係の案件につきまして、御説明を申し上げます。

お手元の委員会説明資料の1ページをお開きください。一般会計・特別会計予算についてでございます。

商工労働観光部の平成29年度一般会計につきましては、補正額欄の3段目に記載のとおり、5,470万円の増額をお願いしており、補正後の予算額は、合計で34億8,974万2,000円となっております。補正額の財源内訳につきましては、括弧書きで記載のとおりでございます。

次に、5ページをお開きください。当部補正額の課別主要事項につきまして、御説明を申し上げます。

観光政策課でございます。計画調査費摘要欄の①、地方創生の深化のための支援費のア、おもてなしのあわ旅促進事業でございます。この事業につきましては、徳島県おもてなしタクシーに関するものでありまして、本年4月から運用を開始しているところでございますが、接遇や観光知識の優れたタクシー運転者を、徳島県おもてなしタクシー運転者として、現在、県内60人を認定しているところであります。

このタクシーを利用した二次交通対策を強化し、観光誘客の促進を図るため、徳島県おもてなしタクシー運転者を対象に、外国人対応研修や、タブレット端末を活用した多言語通訳サービス導入の実証実験を行うとともに、おもてなしタクシー利用者のニーズを調査し、その満足度向上を図るための経費として、370万円を計上しております。

また、イ、「阿波藍」魅力創造発信プロジェクトとして、阿波藍の更なる魅力向上や販路拡大を促進するため、県内の藍関係者などからなるタスクフォースを新たに設置し、藍染の新製品開発やブランド化など総合的な販売戦略を検討するための経費として、500万円を計上しております。

次に、にぎわいづくり課でございます。計画調査費摘要欄の①、地方創生の深化のための支援費のア、とくしまマラソン・ランナーズ・オアシス事業及び、観光費摘要欄の①、

観光交流推進費のア、とくしまマラソン支援事業として、第11回大会となる、とくしまマラソン2018や、大会前日、マラソン初心者やファミリー層などを対象としたファンランを開催するとともに、後夜祭などの多彩なおもてなしイベントの開催経費として、合計4,600万円を計上しております。商工労働観光部において、今定例会に提出を予定しております案件につきましては、以上でございます。

続きまして、この際、三点御報告させていただきます。一点目は、平成28年度観光振興施策の実施状況についてでございます。もてなしの阿波とくしま観光基本条例に基づき、平成28年度における徳島県観光振興基本計画(第2期)の事業の実施状況について、御報告するものでございます。お手元に資料1としてその概要版を、資料2として全体版をお配りさせていただいておりますが、資料1に基づきまして、御説明をさせていただきます。

平成28年度は、三つの核となる重点施策と七つの基本方針に基づく観光振興施策を推進したところであります。主な取組といたしましては、阿波おどりの通年化に向けて、春、夏に加え、秋の阿波おどりの開催、商品商談会やファミツアーの実施による旅行会社向けのプロモーション、助成制度活用などによる学会や会議等のコンベンション誘致、香港、台湾の旅行会社やメディアを招聘したPR^{しょうへい}などを実施いたしました。今後とも、基本計画に基づく各種施策を積極的に推進し、観光振興による地域経済の活性化を目指してまいります。

第二点目は、とくしまLED・デジタルアートフェスティバルについてでございます。お手元の資料3の1ページを御覧いただきたいと思っております。県議会6月定例会の閉会以降、審査委員会及び実行委員会を開催し、事業計画及び来場者数等数値目標を決定したところであります。

まず、1の事業計画(1)シンボルアート作品につきましては、企画提案の公募を行い、審査委員会での審査の結果、チームラボ株式会社の4作品に決定したところであります。

次に、(2)その他のイベント、広報のイベントについては、子供等を中心として、気軽にアートづくりを体験できるワークショップを開催するほか、公募によるライブパフォーマンス等のイベントとして、多くの方が主体的に参加できる機会を創出するため、ワークショップ、ダンス・音楽のパフォーマンス等を広く公募し、開催することとしております。

また、広報につきましては、国内外からの誘客を図るため、旅行会社等と連携したツアー造成や商談会、セミナー等を開催し、積極的なPRに努めてまいります。

次に、2の来場者数等数値目標については、来場者数を40万人、来場者数に占める県外客・国外客の割合を15パーセントと掲げており、今後、関係機関と十分連携を図りながら進めてまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

第三点目は、とくしまマラソンについてでございます。お手元の資料4の1ページを御覧ください。とくしまマラソンにつきましては、去る8月29日に開催された実行委員会におきまして、2017大会の収支決算及び2018大会の事業計画(案)並びに収支予算(案)について審議がなされ、承認されたところであります。2018大会の事業計画(案)でございますが、1の期日は、3月の最終日曜日である3月25日とさせていただいております。2のコース、3のスタート方法、6の募集定員、8の参加料につきましては、2017大会と同様であります。主な変更点といたしましては、4のスタートブロックですが、スムーズな

スタートの実現と競技性の向上を図るため、スタート地点におけるランナー配置を申告タイムを基準とした、走力順とするとともに、5の表彰においては、年代別表彰の区分を見直し、これまで50代、60代、70代としていたものを、全年代5歳刻みの表彰とし、参加者の意欲や達成感を、より高めていただけるよう顕彰をしております。

2ページを御覧ください。関連イベントとして、第10回大会における、新たな試みとして開催したファンランにつきましては、参加された皆様から好評価を頂いたことから、内容の充実を図った上で、2018大会も継続して開催し、とくしまマラソンの裾野拡大につなげてまいりたいと考えております。

収支予算(案)についてでございますが、収入の部では、主催者であります県、徳島市等からの補助金・負担金収入6,600万円、前年度繰越金429万7,000円等を含め、2億2,879万7,000円を計上しております。下段の支出の部では、総務費、事業費、広報費、その他支出については、2017大会の決算額を基に計上させていただくとともに、前回からの繰越金を予備費として計上させていただき、支出予算合計は、収入額と同額の2億2,879万7,000円となっております。3ページには2017大会の収支決算を添付しております。以上が、とくしまマラソンについての御報告でございます。

商工労働観光部の説明及び報告については以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

小笠農林水産部長

続きまして、農林水産部関係の案件について御説明を申し上げます。今回、提出を予定しております案件は、平成29年度9月補正予算案でございます。

説明資料の1ページをお願いいたします。歳入歳出予算の総括表でございますが、一般会計につきまして、上から4段目の補正額欄に記載のとおり、990万円の増額をお願いするもので、補正後の予算総額は16億1,384万4,000円となっております。補正額の財源内訳につきましては、括弧内に記載のとおりでございます。

6ページをお願いいたします。課別主要事項についてでございます。

まず、もうかるブランド推進課関係、3段目の園芸振興費摘要欄①のア、国際水準GAP指導員育成等支援事業におきまして、東京オリンピック・パラリンピックや、その後に見込まれるGAP農産物の需要への対応はもとより、県産農産物の更なる販路拡大や輸出拡大を図るため、産地できめ細やかにGAPの指導ができる、国際水準GAP指導員を育成するための経費として、100万円の増額をお願いするものでございます。

次に、畜産振興課関係でございますが、1段目の計画調査費摘要欄①のア、「阿波尾鶏」GAP・HACCPダブル認証取得支援事業におきまして、本県のリーディングブランド、阿波尾鶏につきまして、販路や輸出の更なる拡大を図るため、農場でのGAP・HACCP認証取得に向けた取組の支援に要する経費といたしまして、390万円の増額をお願いするものでございます。

続きまして、7ページをお願いいたします。水産振興課関係でございますが、1段目の計画調査費摘要欄①のア、鳴門わかめ認証マーク表示価値向上事業におきまして、鳴門わかめのブランド力の更なる向上のため、産地偽装の防止につながる徳島県鳴門わかめ認証制度について、認定事業者を増加させるとともに、制度に対する消費者の認知度向上を図

るための取組に要する経費として、500万円の増額をお願いするものでございます。提出予定案件の説明は、以上でございます。

この際、一点、御報告させていただきます。ターンテーブル整備事業についてでございます。お手元の資料5を御覧ください。本年度中に開設する、ターンテーブルの整備事業の進捗状況と、今後の展開について御報告いたします。

まず、1の経過と進捗状況につきましては、平成28年度並びに平成29年度に記載のとおりでございますけれども、今後10月には記念イベント、12月に竣工、さらに1月以降にオープンを予定しているところでございます。2の記念イベントでございますけれども、10月に渋谷で開催することといたしております。その内容でございますが、渋谷駅前を中心に大規模な都市開発を展開する東京急行電鉄株式会社と連携し、ターンテーブルを核に、徳島と渋谷双方の活性化を目指すプロジェクトを開始することを記念いたしまして、10と9の語呂合わせで、10月9日に、とくしま&とうきゅうの日記念イベントとして実施するものでございます。

第1部では、渋谷駅に直結する大型商業ビル、渋谷マークシティ1階の特設ステージにおいて、第2部は隣接公園を会場に、それぞれ阿波踊りや人形浄瑠璃の実演など、あわ文化4大モチーフのPRを中心として実施する計画となっております。

また、第2部会場では、改修工事の安全祈願と、地元の皆様に徳島県への理解を深めていただくため、餅投げも行う予定といたしております。今後とも、施設の早期オープンに向け、施設開設による効果を最大限に発揮できるよう、関連する東京急行電鉄株式会社や渋谷区との連携を密に取りながら、事業の進捗管理をしっかりと行ってまいります。

以上でございます。よろしく御願いいたします。

森県土整備部副部長

続きまして、県土整備部関係の提出予定案件につきまして、御説明申し上げます。

お手元の委員会説明資料1ページをお開きください。一般会計の歳入歳出予算総括表でございます。表の補正額欄の下から2段目に記載しておりますとおり、今回、県土整備部におきましては、800万円の増額をお願いしております。補正後の予算額は、県土整備部合計で、179億8,253万4,000円となっております。また、補正額の財源につきましては、右の財源内訳欄に括弧書きで記載してございます。

続きまして、8ページをお開きください。各課別の主要事項説明でございます。

9ページを御覧ください。次世代交通課におきまして、新規事業「とくしま×香港」スタートダッシュ・プロジェクトといたしまして、800万円の増額をお願いしております。

次に、10ページをお開きください。その他の議案等といたしまして、(1)指定管理者の指定についてでございます。徳島県立航空旅客取扱施設の管理を委ねる指定管理者の選定を行った結果、徳島空港ビル株式会社を指定管理者として指定しようとするものでございます。指定の期間につきましては、平成30年1月1日から平成34年3月31日までの4年3か月となっております。なお、選定結果等につきましては、資料を提出しておりますので、御参照ください。

11ページを御覧ください。(2)継続費精算報告書についてでございます。平成25年度から平成28年度にかけて継続費を設定いたしました、出合大橋上部工架設事業につきまし

て、平成29年2月定例会におきましてお認めいただきました変更額のとおり、精算したことを報告するものでございます。県土整備部関係の説明事項は以上でございます。

なお、報告事項についてはございません。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

岡田委員長

以上で説明等は終わりました。これより質疑に入りますが、事前委員会における質疑につきましては、提出予定案件に関連する質疑及び緊急を要する案件に限定するとの申合せがなされておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは質疑をどうぞ。

山田委員

何点か聞いていきたいと思えます。まず、議案に関してのことなんですけれども、今日、議案を頂いて改めて見てみたら、地方創生の深化のための支援費というのが、危機管理部は入っていませんけれども、政策創造部、商工労働部、農林水産部、県土整備部、主だった所は全部入っているんですね。これは総額でいったいどれくらいになるのかということと、各部でこの事業によって地方創生を深化するというのは、どういう取組になっていくのかということ、簡単に結構ですから御報告いただけますか。

加藤総合政策課長

地方創生の深化のための支援費ということでございまして、地方創生という言葉は、平成27年から使われ出した言葉でございまして、この地方創生、全国を徳島がリードしていくということで、様々な事業に取り組んでいるところでございます。当然、一つの部で完結するものではなくて、全庁挙げて取り組んでいくということで、予算が各部に分かれていますという状況でございまして、ここに書いてあります、この深化のための支援費の合計が、幾らになるかというのは手元に資料がございません。申し訳ございません。

山田委員

それぐらいは、まとめといてよな。今からでも後でも結構ですから、一度まとめて、9月議会ではどれくらいになっているんだというふうなことと、いったい各部局、政策創造部、商工労働部、農林水産部、県土整備部、簡単に結構ですから、この地方創生の深化ということで見たら、どういうふうなことになっていくのかということについて、何でもありの世界かなと、こんな名前を付けたら議会が通りやすいというふうなことなのかもしれないけれども、しっかりとその事業目的を明確にしとってもらわないと、どうにもならない。もちろん、国のほうからのお金が地方創生の関連予算と付きやすいのでということがあるかもしれない。その辺も含めて、御報告を頂けますか。

渡邊地方創生局次長

ただいま、山田委員から御質問を頂きました。まず、政策創造部関係でございまして。正に今回、補正予算に計上させていただいておりますが、徳島県におきましては、やはり新しい人の流れづくり、社会動態を改善していくんだということが大きな人口減少の克服

に向けた課題で、そういった関連が重要になりますので、こうした取組を通じながら、そうした部分について施策を進めていくということ、大きな目標として掲げております。

福田商工労働観光部次長

商工労働観光部関係でございます。地方創生につきまして商工労働観光部は、今回9月議会では、にぎわいの創出というような観点で、観光のおもてなしタクシーのスキルアップ、それと阿波藍の全国へのPR、とくしまマラソンにおけるにぎわいの創出ということで、この三つの事業を地方創生の深化のための支援費ということで計上させていただいております。

佐藤次世代交通課長

次世代交通課のほうでは、「とくしま×香港」スタートダッシュ・プロジェクトということで、800万円の予算を要求させていただいております。次世代交通課といたしましては、この事業によりまして、人、物の交流の基盤ということで、今回香港からの国際定期便が就航意向を示していただいているということで、人の流れを活性化するために、この予算を使わせていただきたいというふうに考えております。

佐々木農林水産政策課長

農林水産部におきましては、安全・安心対策の推進、経済雇用対策の推進を図るため、一般会計におきまして、九州北部豪雨を踏まえた災害予防対策としまして、治山事業施工地の緊急点検の結果による溪流内の流木の除去、また、本県農産物の販路拡大や輸出拡大を図るため、国際水準GAP指導員の育成や、「阿波尾鶏」GAP・HACCPダブル認証取得の支援などの事業を実施することによりまして、県民の安全・安心の確保、もうかる農林水産業の実現に向けた取組を推進するという、予算を計上させていただいております。

山田委員

今、それぞれ聞いたんですけども、短い中身なので地方創生に結び付くということになれば、いろんな理屈を付けられるんですけども、いろんな事業の中で、今回、こういう事業に地方創生深化のためのということを付けたと。これは加藤課長さんに聞くのか、渡邊次長さんに聞くか分からないけれども、これは、そういう国絡みの地方創生関連の予算が付く可能性があったんで、こういうことを絞り込んで、各部がこういうふうな設定をしたんですか。今回、これを予算化した背景を詳しく御報告ください。

渡邊地方創生局次長

それぞれの部局で政策目的に応じて、当然、県のほうで総合戦略策定しておりますので、その目標達成に向けて必要な予算ということで、各部で検討を重ねた上で、今、このタイミングで必要なものを計上させていただいております。その上で、財源につきましては、当然、政策創造部で言えば、地方創生推進交付金というものを最大限活用できるという考えの下で、計上させていただいているというものでございます。

山田委員

当然、国絡みのお金がということが、一つの前提になってこういうふうになっているのかと思うんですけども、実はこの事業費ですね、地方創生の深化ということになれば、当然、その事業費の主なもの県内に回ってくると。県内を素通りして、まさかv s 東京の東京のほうなどに還流するというものはないですね。全部、県内事業で完結ということなんでしょうか。

渡邊地方創生局次長

まず、政策創造部関係でございますけれども、予算の執行につきましては、当然、議会の予算で成立というものが前提となります。山田委員は、昨日の総務委員会にいらしたので、多分お聞きになっていると思いますが、「地方創生連携協定」活用モデル事業につきましては、県と民間事業者さんとの間で地方創生の推進に向けた連携協定を結んでいまして、その中で当然、協定を結ぶことが目的ではなく、その先の共同で一緒に事業をやっていこうということが目的でありまして、それにつきましては、例えば、県産品のPRであるとか、プロモーションについて、民間企業さんの本社ビルなどでPRをしてもらうとか、そういった無償の協力などもお願いしております。一方で、長けたノウハウを最大限に生かすという観点で、更に深掘りの取組をしていこうということで、今回、官民新しい連携モデル事業というのを考えさせていただいているところでございます。働き方改革というものをテーマにいたしまして、その中でリコージャパン株式会社さんという会社と一緒に、彼らが持っているペーパーレス会議のノウハウとかを、彼らも当然技術者の協力とかは無償でやってもらうと。その上で、我々としてサーバーとかレンタルリースとか、そういった部分についての費用負担等をしながら、一緒に取り組んでいこうというようなことをやっていますので、委員の質問に答えるとするなら、全て徳島県内の企業だけかということ、そういった部分の事業もでございます。ただ、リコージャパン株式会社さんは徳島支店がでございますので、当然そうしたところと共有しながら、やっていくということは考えております。

山田委員

他の部局は、全部これ、県内還流ということでもいいんですか。事業費は県内でとどまると。

福田商工労働観光部次長

商工労働観光部関係で、今回、三つの事業を御提案させていただいております。それぞれ事業目的といたしましては、県が今年始めた、おもてなしタクシーのスキルアップであるとか、地場産業の振興という観点で阿波藍を積極的にPRしていく経費、また、とくしまマラソンにおいてた方のおもてなしの経費というようなことでございます。

全ての事業費が県内で落ちるかということまでは、詳細は把握してはございませんけれども、事業目的に沿って、できるだけ県内事業者の育成の観点からも、県内の発注というのは心掛けていきたいというふうに思っております。

山田委員

他の部局はないようなので、県内でほぼとどまるのかなと。違うのかな。

佐藤次世代交通課長

次世代交通課の事業でございますけれども、香港のほうでプロモーションをしたりするというような事業もございますので、そうしたものにつきましては、地元に着くかと言われますと、現地のほうに着くというものもございますけれども、基本的には、それで香港のほうで徳島をPRすることによって徳島に人がたくさんお越しただけであれば、徳島のほうが活性化するというので、結果的には徳島にもお金のほうが回って、還流するのではないかというふうに考えております。

佐々木農林水産政策課長

農林水産部におきましては、認証取得等に対する支援につきましては、当然、県内の業者が対象でございます。ワカメや畜産物につきましては、PR事業もございますが、基本的には県内業者に委託して、効果につきましては、県外のほうでも行うと出てくる場合があるということでございます。

山田委員

何でこんなことを聞くかということ、東京一極集中是正というふうな面とか、v s 東京を掲げてる本県ですから、本来、地方創生関連予算事業費というのは、できるだけ徳島県に回るようにというふうなことがあって、例えば滋賀県などでも、この方針は確認しているよということがあるんですけども、徳島県でこの地方創生関連の事業費は、できるだけ徳島県に回そうというふうな方針は掲げられてるのですか。それとも各部局に任されて、それは結果として徳島に役に立つか、さっきも佐藤課長さんから話がありました、結果として徳島に還流されるのかという視点でいるのか。その点についてはどうですか。

渡邊地方創生局次長

当然、徳島県の地方創生のためにということで、各部局で予算計上し、事業執行させていただいております。先ほど、お話がありましてとおり、結果として徳島県の地方創生に資するという観点でやっている部分はありますので、まず、明確に県内企業だけにせよとか、そういった方針等は現時点ではありませんけれども、当然、徳島県の地方創生に資するという観点で、事業執行は取り組ませていただいております。

山田委員

私は、なにも全部を徳島県でしろというつもりはないんよ。当然、必要なものもあるでしょう。しかし、本来、地方創生関連事業費ですから、徳島県の自立というなら、できるだけ、もっと地方が知恵を出して、創造して、やはりノウハウを蓄積するというふうなことへいかないと、本当の意味での地方が活かされるような施策にならないのだと。また、それでなかったら、地域の活性化は生まれないと思って。実は全国的にもこのことが、大分議論になっているようなんですね。だから、いわゆる、例えば滋賀県では、一応県とし

では、そういう方向は確認をしているというふうなことがあるんですけども、今の渡邊次長さんの話でしたら、別に県として、結果としてそれぞれ徳島に回ってくるんだっただけで、そういうことをきちんと指示して、確認をしてるという状況ではないというふうなことでいいんですね。

渡邊地方創生局次長

県の地方創生に資する事業を予算計上させていただいて、執行させていただいていると考えております。

山田委員

やはり、地元の自立ということを経営の観点からいったら、やはり、しっかりもう一回検証する必要があるなというふうに思います。そこでね、昨年度の地方関連予算の交付金を受けての実施された事業というのは、どれくらいあるんですか。分かりませんか、分からなかったらいいです。この事業についての中身、そして、その事業の先が、県内あるいは県外あると思うんですけども、その一覧表をできるだけ早く、次の付託委員会できちんと質問もしていきたいと思いますので、提出をお願いできますか。

渡邊地方創生局次長

県としては、交付金の計画というものがございます。また、当然、市町村においても単独で計画を作っているところがございますので。金額について、全体でどういう計画があって、どういう配分を受けているのかということについては整理させていただきたいと思います。

山田委員

これは引き続き見ながら、ここは地方創生の対策の特別委員会ですから、やはり、この問題について、正に徳島県が自立できるような仕組みを、我々自身も一緒に考えて練り上げていくということが、一番重要な課題だと思うんです。東京に本社があるから、そこへいろんなノウハウをと、それは徳島に返ってくるよと言われても、やはり徳島県にとって持続的なノウハウ蓄積につながるのかという問題もあるので、その辺を是非検証したいし、全国的にもそういう動きが出ているので、その資料を渡邊次長さん、一つよろしく願いします。

次に、今日報告があった観光振興施策の報告についても、私、まだ、ざっと見ていないんですけども、6月の時にも聞いたんですけども、この中で不思議やなということがあります。実は数年前の経済委員会で、また、この地方創生対策委員会、交流・交通という時代もありましたけれども、四国DC、これが起爆剤になると、確か岡田委員長の質問や、元木委員さんも質問されてましたけれども、知事はそれで答弁もされてましたけれども、知事が答弁したり、副知事が答弁したり、部長が答弁したりというふうな格好でしてましたけれども、千載一遇のチャンスということで、この2年間余り、平成27年からはずっとこの問題が観光施策の目玉というふうになってきました。しかし、6月の委員会の時も、6月は終わってないからという答弁を黄田課長さんのほうから頂いたんですけども、つまり9月議会ですから、事前委員会でこの四国DCの結果については、公表されるもの

と思っていたのですけれども、全く公表されずにこの観光施策の実施状況というものに出てきているということなんですね。今まで知事や、また議会のほうから再々言って、これが切り札になると、千載一遇、絶好のチャンスだと度々答弁を繰り返してきたにも関わらず、そのことが全く報告されずに、そのままスルーというふうな格好でいつている。極めて違和感を覚えます。四国DCについての詳細な報告を取りあえず、まずはしていただいて、これも付託の委員会でもきちんと文書でも出してほしいくらいなんですけれども、どういう状況ですか。

黄田観光政策課長

ただいま、四国DCの関係の御質問を頂いております。四国DCにつきましては、御案内のとおりJR6社と関係自治体などが共同で行う大型観光キャンペーンといたしまして、今年4月から6月までの3か月間、開催をされたところでございます。全体の誘客目標という形で、そもそも四国ツーリズム創造機構を中心といたしまして、四国各県、また各県の観光協会、四国経済連合会、JR四国で構成されます四国DCの推進委員会、また、それに旅行会社も加えました四国DCの実行委員会というものを設立されまして、いろいろと取り組んできたところでございます。全体の誘客目標といたしましては、四国外から観光できた宿泊者人数が前年比10パーセント増というふうな目標を掲げて取り組まれてきたところでございます。この全体の目標の成果につきましては、現在、まだ精査をしているところということで、まだ報告は聞いていないところでございます。全体の目標に対しては、まだ結果が出ていないというところでございます。

山田委員

実は、四国DCのキャッチフレーズとともに今も出ましたこの誘客目標について、四国外からの観光目的でこられたお客さんの宿泊人数を、前年比10パーセント増ということで目標を決めました。そして絶好のチャンスだ、千載一遇のチャンスだという掛け声でやってきたというふうなことなんですけれども、今までの観光庁の推計もあるし、その前に、なぜそのことがこの委員会できちんと報告されないんですか。まとまってないから。それならいつまとまって報告をするのかということなんですけれども、その見通しと、観光庁の速報値は既に出ています。大きくは変わらないと思います。そのことから見たら、この目標達成は難しいというのは、火を見るより明らかだが、若干の差異はあるかも分からないと思いますけれども、その点については黄田課長さんどうですか。

黄田観光政策課長

四国全体での誘客目標という形で、ただいま申し上げましたように、四国外から観光できた宿泊者人数が前年比10パーセント増につきましては、現在、精査中ということで聞いておりますので、この分につきましては、改めて四国ツーリズム創造機構等に、いつ発表されるかまだ確認できておりませんので、そこは確認したいと思っております。観光庁の出しております宿泊統計の関係、こちらにつきましては山田委員からお話がありましたように、4月、5月、6月の数値は出ているところでございます。こちらにつきましては、速報値ベースでございまして、4月から6月までの4県の延べ宿泊者数につきましては、

56万7,250人という結果が出ているところでございます。

山田委員

もう一回聞きますけれども、4月から6月までの観光庁の推移の中で、徳島県の全国47番の中での順位も含めて、少し詳しく御報告いただけますか。

黄田観光政策課長

4月から6月の3か月間の数値でございますけど、ただいま申し上げましたように、56万7,250人という形で、全国47位という結果になっております。

山田委員

実は今年に入って、全て徳島県は47番目なんですね。観光庁の速報値ですよ。しかし、確定値とそう大きな変化はない。確定値でも平成27年、28年の1月から12月、暦年ですけども全国最下位という状況で、実は、これを打開するために四国DCで観光客を誘致して千載一遇のいうふうなことを言われておったんですけども、この速報値を見る限りは、そういう状況にはなっていないというふうな状況ですね。4月から6月ですから、もちろん、まだ小細の分析はできていないにしても、この数値ですね、また先ほどの目標との整合性、これは徳島県はどういうふうに把握されているんですか。

黄田観光政策課長

この延べ宿泊者数につきましては、全体の数という形で、この内訳につきましてはの詳細、例えば四国外から幾らの方がこられているかというところまでは、各県ごとには出てないところでございます。宿泊統計のほうにつきましては、ただいま申し上げましたように、4月から6月までの間、56万7,250人という形で全国最下位であったところでございますけど、一方で、県のほうで主要観光施設の入込客数調査も行っておりまして、そちらのDC期間中、4月から6月までの間の入込客数につきましては、これは県内の主要観光施設、15施設を調査しておりますけど、前年比で14.2パーセントの増加となっております。多くの観光客の皆様にご来県いただいたということは認識をしているところでございます。

山田委員

入込客数は、実は6月の事前委員会でも黄田課長さんから、今のような御報告がありました。しかし、先ほど決めた目標というのは、飽くまで言われたように、徳島県以外の延べ宿泊者数というふうな数字で、それを見たら、やっぱりぶっちぎりで全国最下位。特に直近の6月、最近観光庁のほうから発表がありましたけれども、6月だけで見たら徳島県が15万8,240人、マイナス7.9パーセントと、香川県はプラス1.1パーセント、愛媛県プラス6.3パーセント、高知県プラス6.4パーセント。こういうふうな状況になって、千載一遇のチャンスと、絶好のチャンスと、度々議会のほうでも委員会でも審議されてきたことが、残念ながらそういう結果になっていない。その結果になっていないのに、今日、観光振興施策の実施状況というのが出てきたということです。この整合性というものは、いったいどうなっているのか。何回もこれ出てます。その度に、ずっとこの状況を改善されていない

ということでみたら、この辺でやはり、しっかりともう一回立ち止まって、徳島県の観光戦略そのものを練り直す必要があるのではないかというふうに思うんですけども、その辺はいかがですか。

黄田観光政策課長

今回、御報告をさせていただきました、平成28年度の観光施策の実施状況でございますけど、こちらにつきましては、観光振興基本計画に掲げております事業につきまして、それぞれ各年度ごと、実施状況を取りまとめて御報告をさせていただいてるところでございます。今回、御報告させていただきました実施状況の主な戦力目標という形で三点掲げておりますけど、一つは、先ほど申し上げました延べ宿泊者数の関係、もう一点が外国人の宿泊者数の関係、三点目がコンベンションの参加者数という形で、その三点を大きな戦略目標として掲げているところでございます。平成28年度の統計につきましては、宿泊者数は約238万人という形で、全国47位でございましたけど、前年からは約7万人増加をしているところでございます。外国人の宿泊者数につきましても約7万人ということで、前年から1万1,000人増加いたしました過去最高という形の報告をしているところでございます。また、中四国規模以上のコンベンションの参加者数につきましては、昨年度9万2,000人から13万4,000人と大幅に増加をしているところでございますので、それぞれの項目につきまして、実際の数値等は上昇しているところでございますけど、一方で延べ宿泊者数は、全国47位という形で目標値からもかい離しているということから、更なる取組が必要であるとは考えているところでございます。

山田委員

この問題の締めで、今の時点で黒下副部長さんか、黄田課長さんかに聞いておきたいんですけど、この現状を当然把握されていると思うんです。さっき言った四国DCというのがあって、4月から6月、終わってもう3か月余りになるというふうな状況からみたら、今、延べ宿泊者数を数字で言いましたけど、この状況を踏まえて観光戦略をもう一回きちっと練り直さなければ、やはりこのままの状況が続くのではないか。特に今年は速報値ですけども、全国47都道府県の中で1月から12月までずっと全国最下位という状況になっている。それとの関係で商工労働観光部の人事が行われていると思わないんですけれども、そういうふうなことも、いろいろ他の県庁職員の皆さんからも声が上がっています。そこで、この状況をどういうふうに見ているのかということについて、御説明いただけますか。

黄田観光政策課長

今回、そういう数値が出たところでございますけど、やはり、先ほど御説明いたしましたように、主要観光施設の入込客数につきましては、昨年と同時期を比べまして14.2パーセントの増加となっているところでございますので、そういう効果につきましては、今後も引き続き、継続できるような形で取組を進めてまいりたいと考えております。

福田商工労働観光部次長

観光の宿泊統計についての御質問を頂きました。統計を含めて観光をどう捉えているの

かというところで、統計的に徳島県の観光宿泊者数、非常に厳しい状況であるというような認識は持っております。これを打開するために、県としてもいろいろな施策を講じているところでございまして、今年につきましては、初めてテーマを絞った観光誘客キャンペーンということで、上期については文化を、下期10月からについては歴史ということで、テーマを絞った観光キャンペーンも展開をしておると。また、JALさんとの連携に続きまして、全日空さんとも包括の連携協定もするとか、いろんな手段を講じてこの観光誘客について立ち止まることなく、前に行きたいというふうには思っております。今後とも徳島県内の観光誘客については、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

山田委員

以前も披露したんですけれども、確かこの委員会だったか、経済委員会だったか、岡田委員長さんの質問だったと思うんですけれども、当時の部長さんが、この四国DCは絶好のチャンスと夢があるけれど、同時にやはり四国4県の実力そのものが結果として出てくると、そこをしっかりと受け止めないといけないというふうな発言をされたこともありました。私、非常に印象に残っているんですけれども、そういうことからみたら、やはりきちっとここで四国DCの取組で自身を分析することが必要だというふうに思うので、これは付託委員会までにできるだけ早く連携を取っていただいて、資料を頂けたらというふうに思いますので、そのことを要望しておきます。時間の関係もありますので、次の問題に入っていきます。

「とくしま×香港」スタートダッシュ・プロジェクト、先ほども話がありました800万円ということですね。香港航空ということで、6月議会で嘉見議員さんの質問で知事が答えたということで、定期便を打診しているというふうな状況ですけれども、今、空港の開設で、新たな3本目のボーディングブリッジも含めての平成29年度中の供用開始と言われてはいますけれども、それが大体いつ頃になるのかということと、香港航空の具体的な見通し。実はこの委員会で岡山空港へ行った時も担当者からも聞かれました、決まったんですねと言われるから、皆さんがいいえまだ決まってないよという話もしながらきたんですけれども。その状況についても詳しく御報告いただけますか。

佐藤次世代交通課長

香港航空の定期便の状況についてでございます。香港航空の定期便の見通しというところでございますけれども、6月の県議会で知事が答弁いたしまして、それ以降ということで、我々も何度か香港航空のほうには要請をしているところでございます。現状といたしましては、やはり香港から日本に飛び立つための、様々な調整ということで、例えば空港の発着枠の状況でございますとか、そういったところの手続きを進めていただいているというところでございます。それと、もう一つの空港の供用開始がいつかというところでございますけれども、これにつきましては平成29年度中の1日も早いオープンというところを目指しておるところでございます。現状いつというところは、まだ決まっていないという状況でございます。

山田委員

現状まだ決まっていないよと、香港航空も今の話ではまだ詰めている段階だというふうな状況ですけれども、別に何月何日までは言わないけども、冬までにとか、例えば今年中にとか、今年はちょっと過ぎるかなというふうな見通しを、せつかくの委員会ですから、御報告を頂きたいと思うんですけれども、その辺の見通しはどうか。

佐藤次世代交通課長

見通しはどうかという点でございますけれども、これにつきましては、両国政府の関係もございまして、今、具体的にいつというのはお伝えできないという状況でございます。我々の思いとしては、やはり一日も早く徳島への就航をお願いしたいというところでございます。

山田委員

これも付託で、いろいろ聞いていかなければいけない。その面で香港航空は基本的に、今8空港、全国で定期便を就航しているというふうに言われていますけれども、それはどここの空港ですか。

佐藤次世代交通課長

香港航空の就航先でございますが、現在、就航しておりますのが札幌の新千歳空港、それと成田空港、関西国際空港、鳥取の米子空港、岡山空港、宮崎空港、鹿児島空港、那覇空港です。

山田委員

その8空港だと。しかし、その8空港の中でもいろんなことがやはりあるようですね。例えば、この前、我々が視察に行った岡山空港。実は、岡山空港で視察した際に、香港線は昨年3月に就航開始したと、7月までは毎日就航だったそうです。しかし、それから週2回に減便されたというふうなことで、その後の高い就航率で推移はしているよという報告は受けたんですけれども、こういう状況になっている。担当の方からも、やはりかなり厳しいその香港航空も、ここの近くでいえば米子空港があるよというふうな話もされてたんですけれど、県はこの認識について、今、八つの空港を言われましたけれども、搭乗率や香港航空の運航状況というのは把握されてるんでしょう。そのことも含めて御報告をください。

佐藤次世代交通課長

香港航空の運航状況ということでございます。確かに山田委員からお話がありましたように、岡山空港については、そもそも当初はデイリー運航ということで、1週間毎日就航してたのが、突然、週2便ということで減便したと我々も聞いて、やはりなかなか国際線というのは安定就航というのが難しいというようなことを改めて実感したという次第でございます。現状で、我々、やはり中国・四国ということで、米子空港とか岡山空港の状況ということで、お話を聞く機会があるんですけれども、やはりエアラインのほうからは高い搭乗率を求められるということで、就航してからの後、安定した運航に向けてプロモー

ションに特に力を入れてやってほしいというような話を言われているといったようなことを、よくお聞きする次第でございます。我々も、今回9月補正でスタートダッシュ・プロジェクトということで800万円の補正予算を要求させていただいておるところでございますが、こうした立ち上がり期からしっかりと、香港インバウンドはもとより徳島からのアウトバウンド、こうしたものの需要も喚起していくということで、徳島と香港それぞれしっかりと、香港では徳島の露出を高めていくといったような取組をして、徳島への誘客を促進してまいりたいと考えております。

山田委員

今、香港便のことを中心にずっと聞いて、なるほどなと思う面と、あれと思う面と両面があったんですけども、それはそれとして、非常にやはり苦戦をしてるんですね。岡山空港の関係者が言っていました。香港便も含めて米子空港だけではなくて、実は関西国際空港ともかなり連携を頻繁に取っていますと。徳島県はそういう連携というか、関空も含めて、ずっと取ってるんですか。また、どういうふうな格好で取ってるんですか。

佐藤次世代交通課長

地方空港との連携というところでございます。我々のほうといたしましても、国際線の誘致を進める上で、いったい海外からのお客様というのが何日ぐらいの日程で日本にいらっしゃるのかというような話をよく尋ねて回りました。その結果、香港から日本を訪問するお客様というのは、4泊5日の日程で日本を訪問することが非常に多いというふうなお話を聞いておるところでございます。我々といたしましては、例えば、香港から徳島にお越しになったお客様が、1日でも長く徳島を観光してもらいたいという思いはあるわけではございますけれども、当然、徳島だけで5日間を過ごすというのは、なかなか現実的には難しいのかなというところもございます。そうした時には、やはり近隣県との連携といったものも不可欠になるということで、例えば4泊5日であれば、徳島から入った時にはこういうルートで、例えば帰りは岡山から帰れるとか、米子から帰れるとか、そうした周遊ルートを商工労働観光部とも連携しながら作成いたしまして、いろいろな所に営業に回るといったような取組をやっておるところでございます。残念ながら、今、具体的に香港航空のほうがいづ飛ぶ、どういう曜日で飛ぶといったようなものが、まだ決まっていませんので、具体的に鳥取県や岡山県と話はできている状況ではございませんけれども、我々としては、そうした連携というのは不可欠であるというふうに思っております。関西空港も含めまして、今後、地方間空港でありますとか、関西空港とも連携しながら、しっかり誘客を促進していきたいと考えております。

山田委員

ちょっと絞って、あと一点だけどうしても聞いておかないと。その問題は、また付託のほうでいろいろとやりたいと思うんですけども、他の台湾便なんかは、どうなっているのかなと、一向に出てこないけどというふうな疑問もあるんですけども、そこに行きたいんですけどそこへは行かないと、指定管理者の問題について聞きたいんですけど。今回ありました、事実上の一者随契ということですね。実は岡山空港へ行った際に、岡山空港は、

当然、空港ビルが全部建設もし、管理もしているよと。徳島県では県有施設で18億円かけているんですよと言ったら、実は空港関係者だけじゃなくて、税関関係者も、ええっというような声も上げられたりしたことが、私は非常に印象深かったです。そこで、なぜこれが一者随契に結果としてなったのかと、簡単で結構ですけど、ここしかないということかもしれない。それと、徳島のように県費で施設整備に当たって、空ビル等で管理するというのは、全国でどれくらいあるんですか。報告ください。

佐藤次世代交通課長

なぜ一者随契なのかという点ですが、大きく言うと二つ理由がございまして、一点は空港法に定める空港機能施設事業者しか、空港機能の管理はできないというところが一点で、徳島空港でそれが指定されているのは空港ビル株式会社だけですよという点がございまして。それと、もう一点といたしましては、既存ターミナルは当然空港ビルの管理でございまして。一体化して運営するものでございまして、そうした面では、セキュリティの観点から違う会社かというのは問題があるといった点、その二点でございまして。それと、他に県が建てているところがあるのかというところでございまして、岩手県の花巻空港、鳥取県の鳥取空港、この二つの空港がございまして。

山田委員

もう閉めるんですけれども、実は岡山空港からも、いろいろお話も聞きながらということで、今も佐藤課長さんのほうから答弁を頂いたんですけれども、ちょっと納得できない面もある。ここに県費で支出をしてということになっているけど、県民の皆さん、どう思うかというふうな点もありますので、引き続き、付託委員会のほうで、今日質問したことを更に深めていきたいと思っております。

黒崎委員

山田委員に飛行機の話はしていただきましたので、私はターンテーブルのことについて、少しだけ御質問をさせていただきたいと思っております。

やっとなら、ここまでこぎつけたという状況でございまして。東急ともいろいろとお話ができ、共に何かできることがないかということで、こういったこともお考えになったというふうなことでございまして。期待をしておりますので、是非成功させていただきたいと思っております。ただ、場所が渋谷と大きく言うと、いい所と思うんですけど、渋谷からちょっと山を上った所ですね。実は、私もこの近辺で仕事もしておりましたこともあるんで、この近辺のことは良く分かっています。昔からピンクの建物もあったなど、あの時代は珍しいピンクの建物があるなどというのがありました。そこだということで、ただ、やり方によっては非常に面白い所ですね。周辺には代官山という大きな雇用をしてるエリア、大きな会社があったり、大使館があったり、あるいはファッションリーダー的なお店もたくさんあったりという所です。ここはビジネスマンがたくさん来る所です。それと、片やNHK側を望みますと、松濤町という日本でも指折りの高級住宅地。これは、本当に田園調布よりも、もう一つ上という所です。歴史に名前を連ねる人が何人も住んでいる所です。そういった所にありますので、やりようによっては大変面白い。かつ、やっぱり東急の中心、

東急のお膝元でございますので、東急とどうできていくのか。東急とどういうふうな歩調を合わせると言ったら相手が大き過ぎますので、東急の力をどう借りれるのか、軒先をどう借りてどうやっていくのかということになるんですが、そんな場所です。

そういった所に、まず、地元の皆さんに徳島県への理解を深めていただくという趣旨で、隣の公園を使ってイベントもやるということでございますが、オープンも含めて地元の方々にどのように周知するのかということが、一つ気にかかるところでございます。どのような周知をなさるのかということをお聞かせいただければと。

新居農林水産部次長

ターンテーブルのイベントの周知についての御質問を頂いたところでございます。実は、このターンテーブルを設置するに当たりまして、当然、地元の方々にも親しんでいただく施設作りが大切だと考えておりまして、地元の町内会がでございますけれども、その町内会の皆様とは、実は県がここに場所を決めて以来、いろいろとお付き合いさせていただいているところでございます。もちろん、このターンテーブルのオープン、それと、この10月9日のイベントの周知しかりでございますけれども、まず町内会を通じてチラシをまくなど、そういったお手伝いもしていただけるということでございますので、そういった形での周知を考えておるところでございます。

黒崎委員

町内会ということでございますので、それは大変良かったかと、私は初めて聞いて思いました。元々そこに住んでいる方というのは、結構、地元意識が強い場所でもございますので、地元の方にどれだけターンテーブルに協力していただけるような形を作るのか、地元の店であるというふうな認識をもっていただくのが一番かなと思っておりますので、是非とも成功させていただきたいと思っております。いいですね、予定している内容を見ても、餅投げとありまして、こういう田舎っぽいのが、私は一番受けるのかなと思っております。それと、あともう一つ、出来上がった後で事業を委託していくというふうなことでございますので、委託はするけれども、委託したんだから後は頼むよというのではなくて、ことごとく、いろんな細かい所を口出ししていけるような、それぐらいのつもりでやっていただきたいと思いますと思っております。委託した所は委託した所で、利益も出そうと思っておりますいろんなことやると思うんですけど、ケースバイケースや、徳島県の思いとちょっと外れたところというふうなことになりがちでございますので、そのところは、委託したけれども徳島県の思いだけは常にちゃんと伝えて、それを実行していただくみたいな形というのをやっていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

新居農林水産部次長

施設完成後の運営についての御質問を頂いたところでございます。黒崎委員のほうから委託というお話がございましたが、実は正確に申し上げますと、完成後にこれを転貸借、要は運営会社に貸し付けるわけでございます。そうしますと、運営主体はその運営会社DIY工務店になるわけでございますけれども、この転貸借契約の貸付条件といたしまして、今、委員がおっしゃられたとおり、徳島にメリットが還元できるようなその決まり事、そ

ういったものを転貸借の条件に付するというところで、現在、D I Y工務店ともその内容についての協議を進めているところでございます。ターンテーブルのメリットを、どうやって徳島に還元していくかということにつきましても、企画当時からいろいろ考えておるわけですが、その辺はD I Y工務店からも、どういったことができるのかというのを聞きながら、その条件にも盛り込んでいきたいと、こういうふう考えておるところでございます。

黒崎委員

この契約書で巻くと。その内容であるというふうなことで、そういう認識でよろしいでしょうか。

新居農林水産部次長

そのとおりでございます。

黒崎委員

是非とも、よく相談して意見を伝えて、できるできないをはっきりさせて、前に進めていただきたいと思っておりますので、是非とも成功させていただきたいと考えております。よろしく願いをいたします。

元木委員

昨年度の2月議会におきまして、G A Pの取得推進について本会議においてお伺いさせていただきましたので、今回の補正予算に計上されております国際水準G A P指導員育成等支援事業100万円について、少し関連した質問をさせていただけたらと思う次第でございます。まず、この事業、先ほどの御説明では、東京オリンピック・パラリンピックに向け、県産農林水産物の販路拡大を目指して取り組んでいくための費用であるといった御説明であったかと思っておりますが、もう少し具体的にどういったことに使っていくのかという点について、お伺いをいたします。

新居農林水産部次長

元木委員のほうから、今回、上程させていただいております補正予算についての御質問をいただきました。国際水準G A P指導員育成等支援事業でございます。まず、現在の状況といたしましては、皆さん御承知のとおりでございますけれども、東京オリンピック・パラリンピックの食料調達基準、これが本県の安^{あんあん}2 G A Pの優秀認定以上のG A Pを求められたというふうに決まったところでございます。まずは東京オリパラに向けて食料をきちんと調達できるような体制作りを、今取っておるところでございます。昨年度末では、この国際水準G A P指導員、正確に申し上げますとアジアG A P、ここまでの水準でございますけれども、現在、県内にJ Aの営農指導員でありますとか、県の農業支援センターの普及指導員でございますとか、そういった方々が指導員の資格を取られておまして、現在35名ということでございます。ただ、実はこれで県内隈なく網羅できておるかという点、そうではございませんで、支援センターでいきますと2地域、それからJ Aで言いま

すと7地域、まだ、その指導員がいない地域がおるわけでございます。こういう所を、きちっと隈なく指導員が行き渡るように決めるために、あと23名、この事業で指導員を育成いたしまして、計58名体制で、しかもエリアとしては県内隈なく指導員がいますと、そういう状況にもっていくための事業でございます。

元木委員

計58名を育成したいということでございます。御承知のとおり、この事業というのは農作物の生産過程全てにおける工程管理ということで、農業をする際の安全対策に始まり、残留農薬の管理の問題や、幅広く言えば鳥獣害対策といった、そういった幅広い分野において、GAPという一つのシンボルの下に皆さんが一緒になって取り組むということでございますので、JAのほうも統合に向けた取組も進んでいる中で、個人・団体に関わらず、一つの方向に向かって関係者が一致団結するというふうに、本当に貴重な課題であるなど、取組であるなど感じておるわけでございます。今回は指導員を育成するというところでございますけれども、将来的に東京オリンピック・パラリンピックに向けて、具体的にGAPの認証数をどの程度まで引き上げていこうというお考えであるのか、また東京オリンピック・パラリンピック以降につきましても、本県で持続的な農業の発展に向けて具体的な数値目標を設定して、それに向けた具体的なタイムスケジュールを策定して取り組んでいくべきであると考えますけれども、県の御所見をお願いいたします。

新居農林水産部次長

GAPにつきましては、もちろん、東京オリンピック・パラリンピックの食料調達基準に合致するために、^{あんあん}安²GAPの優秀認定以上の方を増やしていくということでございます。現在74名の方が基本認定でございまして、優秀認定は17件ということになっています。この件数を、まずはオリンピックに向けて増やしていきたいというところでございます。ただ、問題は東京オリンピック・パラリンピックの後、ポストオリパラについて、果たして日本国内市場で、そういうGAPが求められていくのか、若しくはアジア、それからヨーロッパで、そのGAPが求められていく市場が現れてくるのかというところでございます。現在のところ、ヨーロッパについてはGAP発祥の地で、大量に物を輸出する場合は、GAPが求められるわけでございますけれども、まだアジアのスタンダード、それから日本国内でも、卸売市場でありますとか、小売業界でありますとか、そういった所でGAPが求められている例が少ない状況でございます。ですので、私どもの姿勢といたしましては、まずは東京オリパラに向けて、まずは優秀認定の方を増やしていくと。それと数について、実は個人でも取れますし、JAといった団体でも取れるわけでございます。やはり総量を増やしていくためには、個人というよりは、その産地でありますとか、JAという大きい組織で取っていただくのが非常に有効かと考えておるわけでございます。やはり私どもとしては、そういった団体の取得を、今後、重点的にやっていこうとしておるわけでございます。ただ、現時点で先々のGAPの状況というのが、まだ見えない状況でございますので、具体的な数字でやっていくというよりは、やはりGAPを取りたい、単純にGAPを取って、例えば労働安全を図りたい、環境保全を図りたいという生産者の方、それから、ヨーロッパに持っていきたい、アジアに輸出していきたいと、そういった方を中

心に、まずはGAPを取っていただきまして、そういう形で東京オリンピック・パラリンピックに向けて優秀認定以上を増やしていきたいと、こういう戦略で臨んでいるわけでございます。最終こどもっていききたいというのは、面積を何パーセントにしたいとか、現在、数字的なものは持っていない状況でございます。

元木委員

具体的な数字というのは、設定が難しいというようなことであつたかと思ひます。おっしゃっていただいたとおり、団体の取得を進めるというのが一つの大きな課題であらうかと思ひますので、是非、個人、団体分けて、アジアGAP、JGAP、そして安^{あんあん}2GAPと、いろいろな段階における認定者数を、具体的な工程目標を定めて、それに向かつて県としても積極的な取組を進めていただきたいと思ひ次第でございます。

それと2月議会におきまして、私が質問させていただいた際の答弁の中で、この工程管理を、農業に従事される方がスムーズに活用していただくために、独自のアプリを開発していきたいという旨の御答弁があつたかと思ひますけれども、その後のアプリの開発状況はどういった状況なのか、お教えいただけたらと思ひます。

新居農林水産部次長

アプリの開発についてでございますけれども、現在、いろいろなアプリを持っている業者からヒアリングをしている状況でございます。県独自の仕組みを作ってしまうと、後々の汎用性とかいろんなところに問題がございますので、既に開発されているアプリのカスタマイジングでどのくらい対応できるのか、どういったものを導入するのが良いのかというのを、今、ヒアリングをして検討をしている状況でございます。業者が決まりましたら、それをカスタマイジングして徳島県に一番合致した形のものを作っていくところでございます。

元木委員

是非、本県ならではの安^{あんあん}2GAP、そして本県ならではのアプリ開発ということで、他県に先駆けた取組を進めることによって、東京オリンピック・パラリンピック、そして、それ以降の県産食材の海外輸出というの、競争がこれから激化していくことが予想されますし、消費者の方々の食品への安全・安心への関心ということも、今回の鳴門わかめの罰則強化の事例もあいまつて、高まっていくと思ひますので、そういう中で、競争力を保てるように、積極的な取組を進めていただきますように、要望をさせていただきます、質問を終わらせていただきます。

岡田委員長

ほかに質疑はございませんか。

(「なし」という者あり)

以上で質疑を終わります。

これをもって地方創生対策特別委員会を閉会いたします。(午前11時50分)